

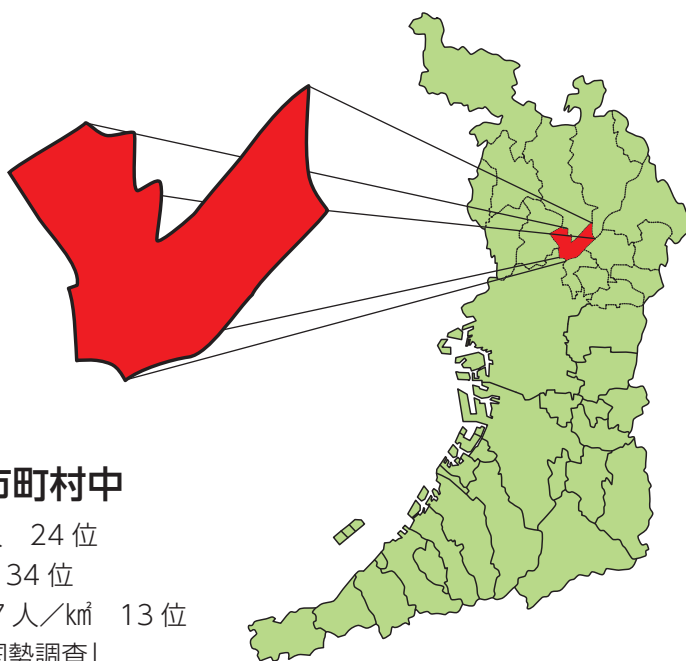
# データで見る摂津市

## ～まち・ひと・しごとの特徴～

摂津市の現状が分かる各種データを集めました。人口や、健康・子育て・産業分野にかかるデータで市の特徴を見ていきましょう。

人口減少対策として平成 28 年 3 月に策定した「摂津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の取り組みも紹介します。

摂津市は、大阪府の北摂地域に位置し、西は大阪市や吹田市、北は茨木市、東は高槻市、南は淀川をはさんで、守口市や寝屋川市と接しています。市域の大部分は平坦な地形で、東西 6 km、南北 5 km に広がっています。



### ★府内 43 市町村中

人口 85,007 人 24 位  
面積 14.87km<sup>2</sup> 34 位  
人口密度 5,717 人/km<sup>2</sup> 13 位

出典：総務省「国勢調査」  
(平成 27 年 10 月 1 日現在)

### まち・ひと・しごと 創生総合戦略

人口減少対策として、平成 31 年度までの市の取り組みをまとめたものが「摂津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」です。

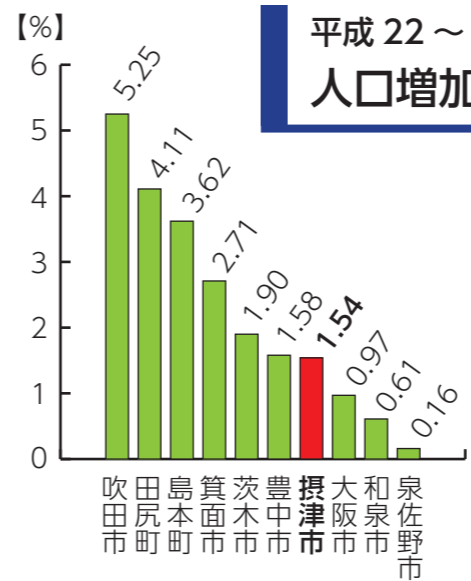
今後、短期的には、吹田操車場跡地における「北大阪健康医療都市(健都)」の開発によって人口増加が見込まれていますが、大規模開発による住宅供給などが一定落ち着き、引き続き少子高齢化が進む中では、全国的な傾向と同様に本市でも人口減少に転じることが予測されています。

国立社会保障・人口問題研究所によると、現在約 8 万 5 千人の本市の人口は、2060 年には 5 万人台にまで落ち込むと推計されています。しかし、総合戦略の基本目標(6〜9 ページ)を実現する子育て支援や地域活性化などの取り組みを進めることにより、市では、2060 年における人口の将来展望を 7 万 2 千人としています。

市の特性や課題をふまえて策定した総合戦略に基づき、安心と活力があしたへつながるまちを目指して、住みたい、住み続けたいと思えるまちづくりを進めていきます。

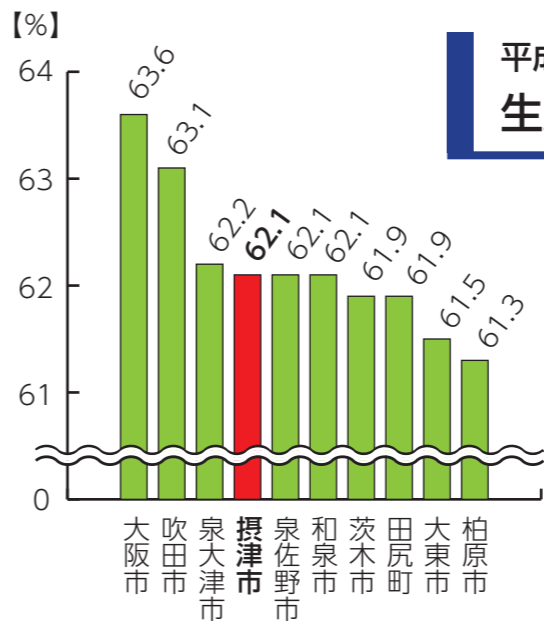
南千里丘地域に建設された大型マンションへの入居が平成23年から始まり、市の人口を増加させました。  
 年齢(3区分)別人口構成比では、15〜64歳の割合が、府内で4番目に高くなっていますが、0〜14歳と同様に年々減少傾向にあります。65歳以上は増加傾向であり、地域活力や医療・介護需要に影響を与える少子高齢化への対策が必要です。

市町村別の人口増減率 出典：総務省「国勢調査」



前回調査(平成22年)の31位から大きく上昇しました。平成22～27年の間に、府内で人口が増えたのは8市2町だけ。  
 増えた人口は1,287人で、府内6位でした。

15～64歳人口の構成比 出典：総務省「国勢調査」



15～64歳は、労働力の中核をなす生産年齢人口です。  
 ちなみに65歳以上の老年人口は24.4%で、低い方から6番目でしたが、平成7年の8.9%に対し、20年間で約3倍になっており、急速に高齢化が進んでいます。



## 特徴その2 健康

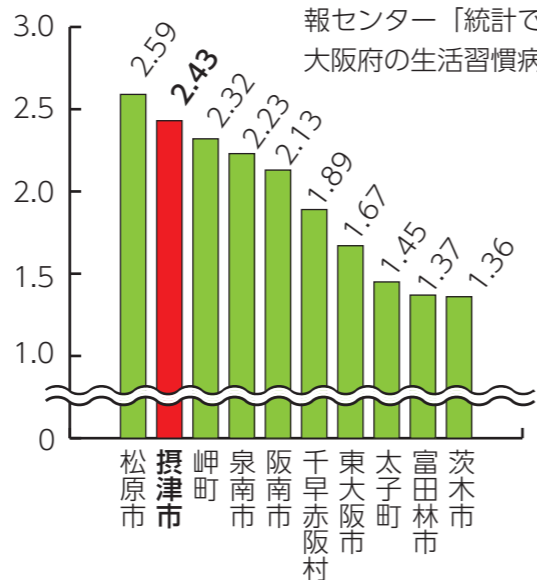
市の平均寿命は、府平均より高くなっていますが、北摂地域では低くなっています。また、健康上の問題がない状態で日常生活を送れる「健康寿命」も、同様の結果でした。  
 まちの活力を持続するためには、その担い手である市民の健康づくりが必要で、特に生活習慣病予防が重要な課題となっています。

### 平成20～24年 急性心筋梗塞の標準化死亡比 府内2位



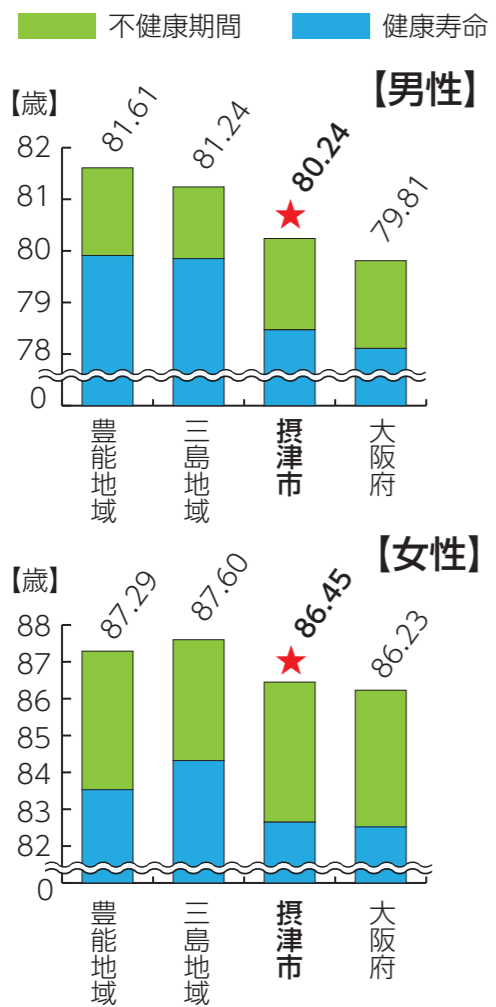
市の平均寿命は、府内では男性24位、女性は21位でした。  
 急性心筋梗塞による標準化死亡比(人口構成の違いを除去して比較・府を1とする)で、市は府内で2番目に高くなっています。

出典：大阪府がん予防情報センター「統計で見る大阪府の生活習慣病」



### 平均寿命グラフ (平成27年)

出典：大阪府健康づくり課



#### <北摂地域>

- ▽豊能地域：豊中市・池田市・吹田市・箕面市・豊能町・能勢町
- ▽三島地域：高槻市・茨木市・摂津市・島本町

## 総合戦略

### ●基本目標1

快適で利便性が高いまち

#### ◆阪急京都線の立体交差化

阪急摂津市駅を中心に、山田川から大正川付近までの全長約2.1kmの区間で線路を高架にし、交通渋滞の解消と市街地の一体化を図ります。2034年完成予定です。

#### ◆新しいまち「健都」の整備

摂津市と吹田市にまたがる操車場跡地で、「北大阪健康医療都市(愛称「健都」)の整備を進めています。摂津市域の千里丘新町では約1千戸のマンション建設が進んでおり、今年3月から順次入居が始まる予定です。



## 総合戦略

### ●基本目標2

健やかに暮らせるまち

#### ◆国循との連携

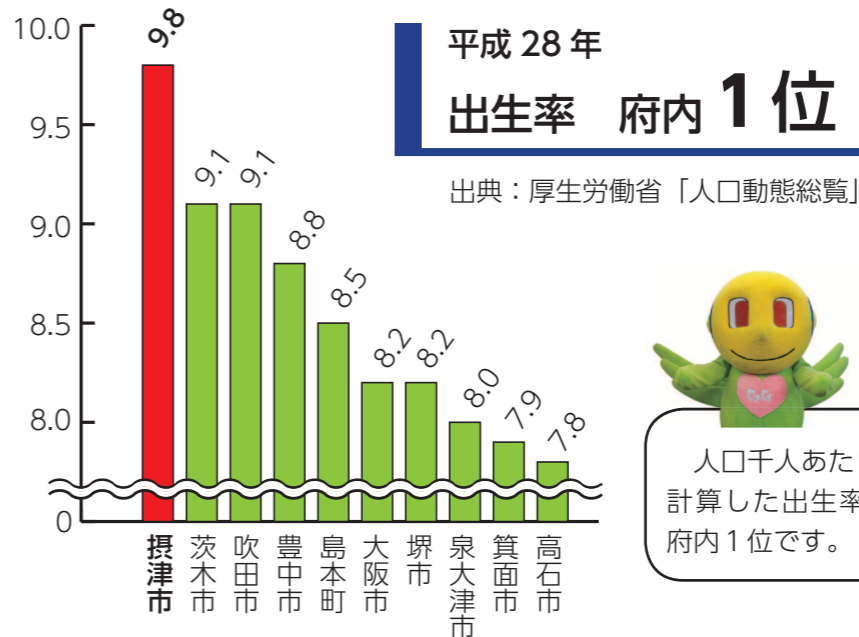
健都で平成31年7月に運用予定の国立循環器病研究センター(国循)と、全国に先駆けて昨年4月から、心筋梗塞による死亡を未然に防ぐキャンペーンを開始。早期受診・治療につながります。また、国循の医師を招いて、心臓病や糖尿病についての市民健康教室を開催しています。

#### ◆ウォーキングコースの設定

市内にウォーキングコースを巡らせ、健康器具を設置する「まちごとフィットネス!ヘルシータウンせつつ事業」を展開しています。現在8コースあり、今年3月までに1コース新設する予定です。



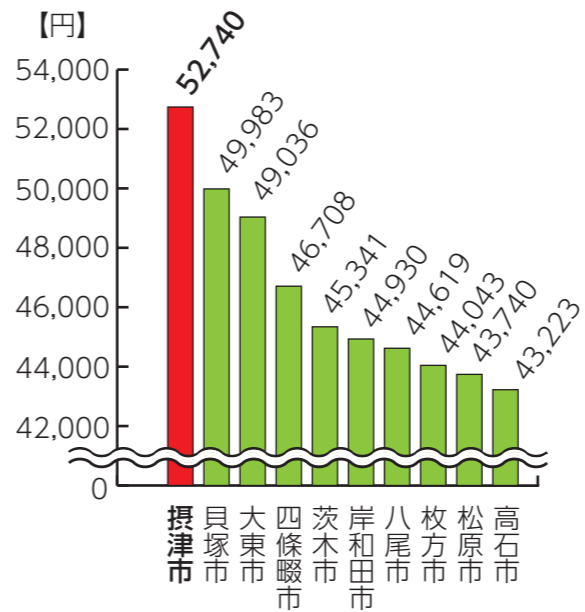
全国的に少子化が進む中で、市の出生率は高い傾向にあります。0～14歳の年少人口は減少傾向です。保育所整備や医療費助成などの子育て支援サービスの充実に取り組んでいます。子育て世代の転入・定住促進のため、今後も、安心して子どもを生み育てられる環境づくりを進める必要があります。



人口千人あたりで計算した出生率は、府内1位です。

### 平成27年度決算 児童福祉費 府内1位

出典：大阪府「市町村なんでもランキング」※政令市除く



### 平成29年 保育所の整備率 北摂1位

出典：摂津市こども教育課

摂津市 44.37%  
北摂平均 31.99%

0～5歳の未就学児数に対する保育所定員を示す保育所整備率（29年4月1日現在）は、北摂7市で1位、住民一人あたりの児童福祉費は府内で1位です。

●基本目標3

子育て・教育への願いをかなえるまち

◆保育所整備と定員の拡大

市は、民間保育園の創設や建替えに対して補助を行うことで整備を進めています。正雀ひかり保育園（正雀1丁目）が定員180人（現在90人）の認定こども園正雀ひかり園として建替え、平成31年4月の開園を予定しています。また、旧山田川公園（千里丘7丁目）の一部に定員160人の認定こども園を整備予定で、30年度途中に開園予定です。その他、平成30年4月に、正雀2丁目に定員19人の小規模保育事業所の開園を予定しています。

◆子ども医療費助成の拡大

子ども医療費助成の対象を今年4月から、18歳（高校卒業年齢）までに拡大します。入院・通院とも助成対象で、所得制限はありません。18歳までの助成は大阪府内で数少ない取り組みです。

●基本目標4

企業が元気でいきいきと仕事ができるまち

◆「健都」に企業誘致

国循移転用地に隣接する「健都イノベーションパーク」で、複合医療産業拠点（医療クラスター）を形成します。健康・医療関連企業の研究施設などが新たな製品やサービスの研究開発を進めます。地元企業にもビジネスチャンスの拡大や雇用の促進が期待されます。

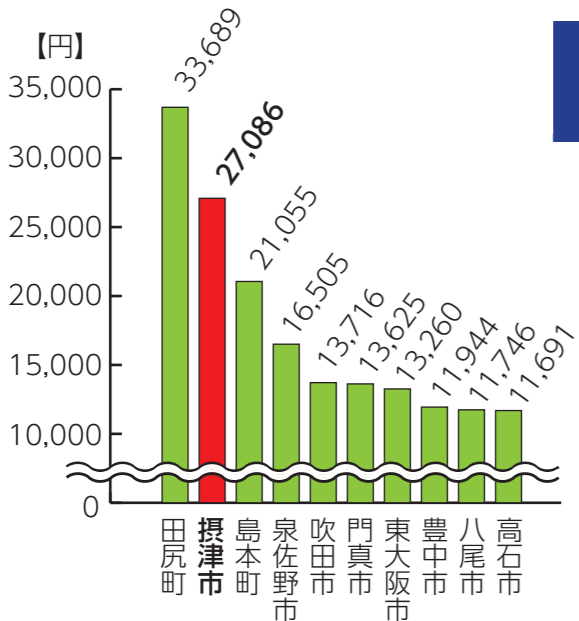
◆摂津ブランドの認定

市と市商工会が、市内中小企業の優れた製品を「摂津優品（せつすずくもん）」に認定し、市のブランドとして育てる制度を昨年7月から開始し、第1回審査で6製品を認定しました。高い技術で作られたオリジナル製品を市内外に広くPRし、販路拡大につなげていきます。



### 平成27年度決算 法人住民税の額 府内2位

出典：大阪府「市町村なんでもランキング」※政令市除く



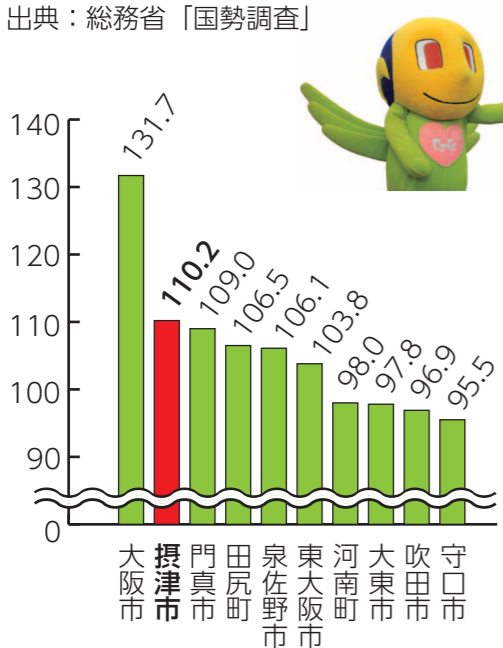
市内に事務所や事業所を置く法人が市に納める、住民一人あたりの法人住民税の額は、田尻町に次いで府内2位です。



市域には4千249の事業所があり、その約96%が従業者50人未満の中小企業です（総務省「経済センサス（平成26年）」。一方、大規模事業所が国内でも主要な工場・研究拠点を置いています。市外から働きに来る人が多いことから、夜間よりも昼間の人口が多くなる「産業のまち」です。市の活力と財政を支える産業の強みをまちづくりに生かすことが重要です。

### 平成27年 昼夜間人口比率 府内2位

出典：総務省「国勢調査」



昼間の人口が夜間の人口を上回っている（昼夜間人口比率が100を超えている）のは府内で5市1町。比率は大阪市に次ぐ2位です。調査時（27年10月1日）は、夜間人口85,007人に対し、昼間人口は93,646人で、夜間より昼間の人口が8,639人増加していました。

